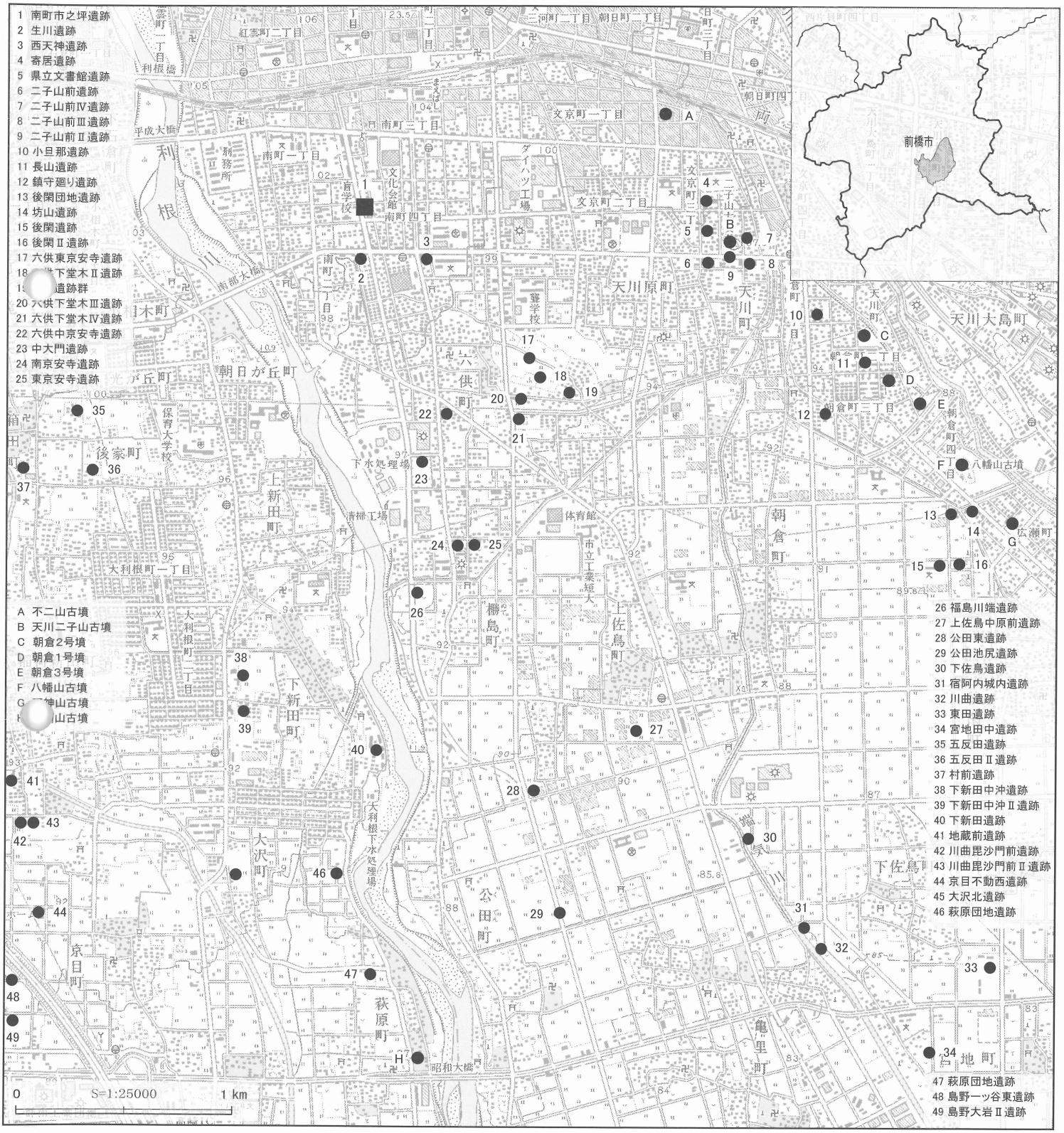
# 前橋市

# 南町市之坪遺跡

レオパレス21山口邸新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書




※ 国土地理院発行「数値地図25000(地図画像)宇都宮」(平成15年11月 2刷)使用

2008. 09

前橋市教育委員会

## 例　言

1 本書は、レオパレス21山口邸新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書である。
2 発掘調査から報告書刊行に至るまでの一連の作業は、国際十王交通株式会社の費用負担によって行われた。
3 発掘調査及び整理作業は、前橋市教育委員会の指導・監督のもと、有限会社歴史考房まほらが実施した。
4 発掘調査の事項は以下のとおりである。
　遺 跡 名 称　南町市之坪遺跡　調査コード:20H-44
　調査主体者　前橋教育委員会　教育長 中澤 充裕
　遺跡所在地　前橋市元南町四丁目46番1、46番10
　調査担当者　山下　歳信(前橋市教育委員会)・大嵩崎　泰明(有限会社歴史考房まほら)
　調 査 期 間　平成20年 6月25日　～　平成20年 7月11日
　調 査 面 積　約220㎡
　整 理 期 間　平成20年 7月14日　～　平成20年 9月12日
5 本書の執筆は「1 調査に至る経緯」を山下が、「4 まとめ」を笠原が、その他を大嵩崎が行い、編集は笠原・大嵩崎が行った。
6 測量は田中隆明に、遺物写真撮影は山際哲章に委託した。
6 発掘調査資料、出土遺物は一括して前橋市教育委員会に保管してある。
7 発掘調査・整理作業に従事した者は次のとおりである。(五十音順・敬称略)
　発 掘 調 査：　五十嵐慶三郎・兼田賢章・国定茂・森田全彦・山口勝正
　整 理 作 業：　栗山佐江子・渡辺由美・中里正憲
8 発掘調査から報告書刊行に至るまでに、下記の諸氏・機関に協力を賜った。(敬称略・50音順)
　佐々木清貴・田口一郎・深澤敦仁・山下工業㈱・レオパレス21高崎支店・若狭徹

## 凡　例

1 本書に使用した地図は、国土地理院発行『数値地図25000(地図画像)宇都宮』(平成15年11月2刷)である。
2 本書掲載図の縮尺は各図に示したとおりである。
3 掲載図の北方向は座標北方向角を、水準線は標高を示す。座標値は日本測地系Ⅸ系を用いた。
4 遺物観察表の色調は『標準土色帖』(財団法人日本色彩研究所色票監修)を使用した。

## 目　次


例言・凡例・目次
1 調査に至る経緯 …… 2
2 調査経過概要 …… 2
3 遺構・遺物の概要 …… 2
4 まとめ …… 14
5 H-4炉出土の二重口縁壺について …… 15
抄 録 …… 裏表紙


## 掲載遺構図・写真


遺跡周辺図 …… 表紙
遺跡全体・断面図 …… 3
遺構断面図、遺構一覧表、遺跡全景 …… 4
遺跡全景、H-1全景、H-2全景 …… 5
H-4全景・H-4炉 …… 5
H-5全景、H-5遺物出土状況 …… 6
H-6全景、H-7・8、B-1全景 …… 6
H-7カマド遺物出土状況 …… 6
H-7貯蔵穴、B-1柱穴 …… 6
H-9全景、H-10全景、H-11全景 …… 7
H-14全景、H-14遺物出土状況 …… 7
D-1全景、P-1全景、作業風景 …… 7
H-1・2・4・6出土遺物 …… 8
H-5・7・9出土遺物 …… 9
H-10・14、P-1出土遺物、出土遺物観察表 …… 10
H-1・2・4出土遺物、H-4炉出土加飾壺 …… 11
H-4№8・9・10・11、H-5出土遺物 …… 12
H-6・9・10・7・14、D-1、P-1出土遺物、鉄製品 …… 13
遺構新旧関係図 …… 14
H-4炉 二重口縁壺出土位置、出土状況 …… 16


## 1 調査に至る経緯

平成20年3月11日に高崎市本町49　山口誠二氏より南町四丁目についての埋蔵文化財確認調査の実施依頼を受けた。これを受けて平成20年4月22日に試掘調査を行い、古墳～平安時代の住居跡、土坑、掘立柱建物跡と土器等も検出したため、施主と協議を行った。現状での保存が不可能との事から、記録保存を目的とした調査について調整に入り、発掘調査を実施することで合意した。

平成20年6月　レオパレス21山口邸新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査の依頼が前橋市教育委員会に提出された。本市教育委員会ではこれを受け、建設建物予定地の調査を実施した。なお、現地調査は本市教育委員会の指導のもと、有限会社歴史考房まほら(調査員　大嵩崎　泰明)が担当した。

なお、発掘調査から報告書作成にいたる一連の費用は、国際十王観光株式会社に負担していただいた。

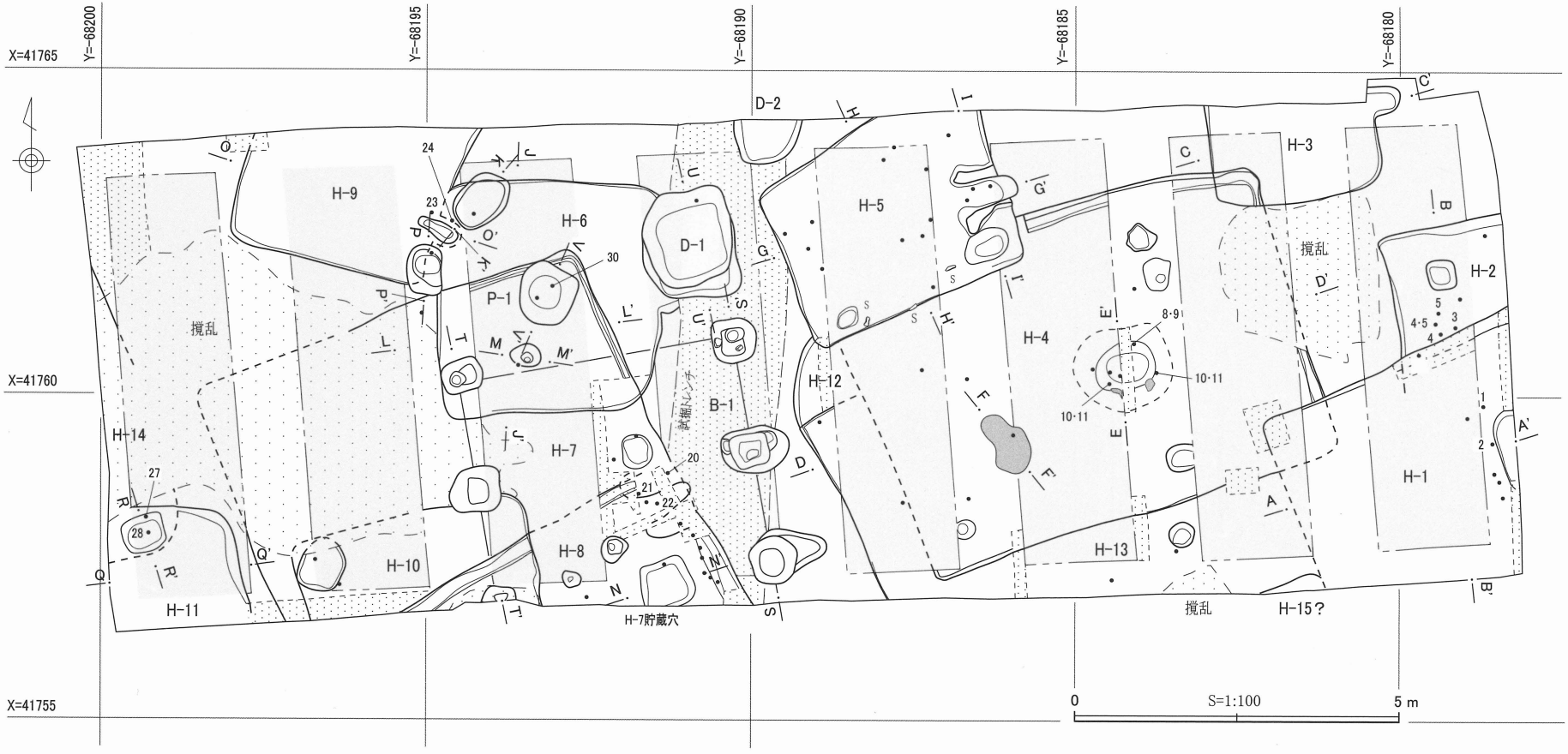
## 2 調査経過概要（平成20年 6月25日　～　平成20年 7月11日）

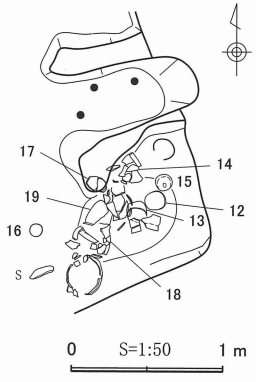
6月25日：　調査着手。重機による表土掘削開始。器材搬入。
6月27日：　表土掘削終了。調査範囲設定、遺構調査開始。
6月30日：　遺構検出ほぼ終了、調査区東側より遺構掘削開始。
　　：　測量作業。遺構平面図、遺物出土地点記録。
7月1日：　H-5貯蔵穴完掘。遺物写真測量。
7月4日：　遺構掘削ほぼ終了。
7月8日：　測量作業(遺構平面図、エレベーション図)。完了確認検査。
7月11日：　全景写真撮影、器材撤収。現地調査終了。

## 3 遺構・遺物の概要

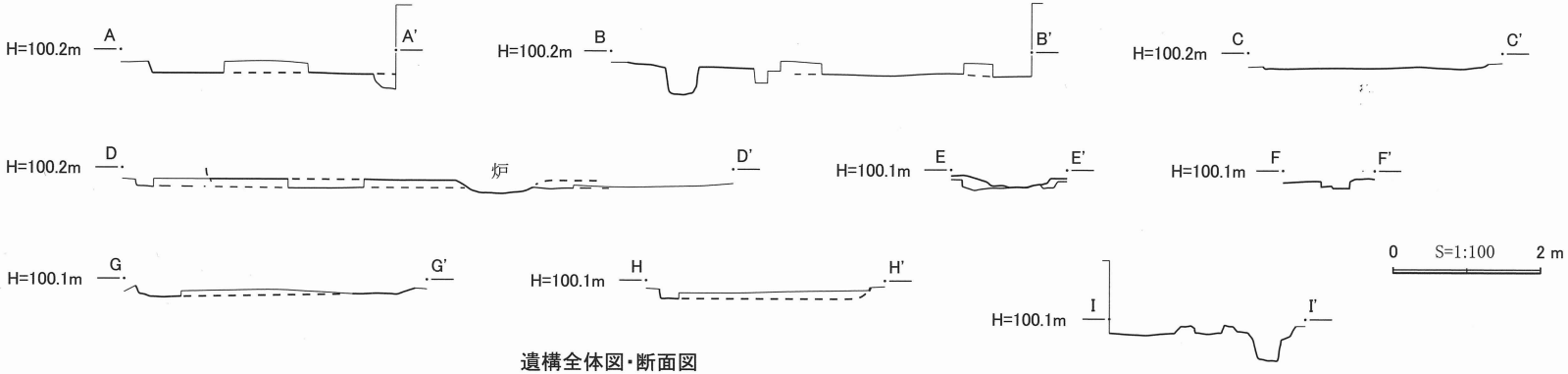
本遺跡は生川遺跡(前橋教委. 1987)の北に隣接し、同様な内容を示す遺構・遺物が確認されている。本遺跡の周辺は市街地に近いこともあり、発掘事例が少なく周辺の状況は不明であるが、古墳時代の大規模な集落が存在することは両遺跡の状況から確実視される。さらに本遺跡は石田川期～鬼高期にかけて大型住居が多く、密集度の高い傾向が窺える。またH-4炉からは周辺地域では出土例のないパレス系壺(東海系)が4点も出土し、H-5からは鬼高期新段階の土器セット関係を示す出土状況が確認された。

遺　構：　古墳～平安時代の竪穴住居15軒、掘立柱建物1棟、土坑2基、ピット1基
遺　物：　古墳時代土師器杯、高杯、鉢、壺、甕、甑等多数出土。

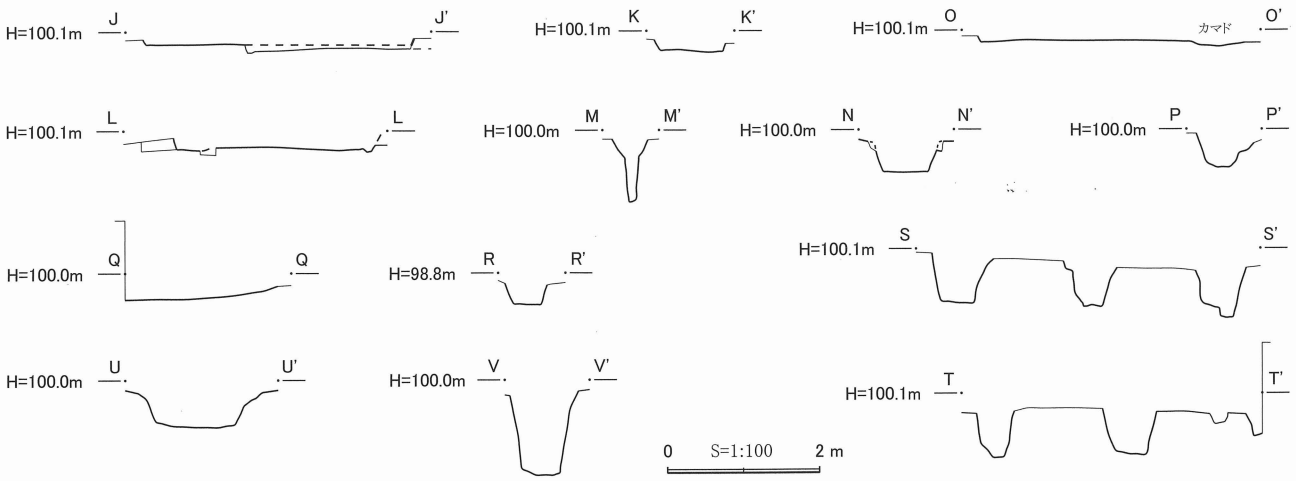



H-5遺物出土状況




遺構全体図・断面図




遺構断面図

遺構一覧表

| 遺構名 | 計測値(m) | | | 新旧関係 | 主な遺物 | 平面 | 断面 | 主軸方位 | カマド・炉 | 床 | 柱穴 | 壁溝 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 長軸 | 短軸 | 深さ | | | | | | | | | | |
| H-1 | — | — | 0.14 | H-1>H-2、H-4 | | 方形 | 凹形 | N-68° -E | — | ○ | × | ○ | |
| H-2 | — | — | 0.07 | H-1>H-2 | | 方形 | 凹形 | N-12° -W | — | × | ○ | × | |
| H-3 | — | 2.66 | 0.07 | H-3>H-4 | | 方形 | 凹形 | N-84° -E | 東カマド | × | × | × | |
| H-4 | 6.76 | 4.82 | 0.10 | H-4>H-12、H-13 | 二重口縁壺 | 方形 | 凹形 | N-70° -E | 中央直炉 | × | × | ○ | 硬化面あり |
| H-5 | 3.46 | 3.00 | 0.07 | H-5>H-4、H-12 | | 方形 | 凹形 | N-71° -E | 東カマド | ○ | × | × | 貯蔵穴有 |
| H-6 | 3.44 | 3.42 | 0.07 | D-1>H-6>H-7、H-9、B-1 | 鉄製紡錘車 | 方形 | 凹形 | N-89° -E | 東カマド | ○ | × | × | |
| H-7 | — | — | 0.09 | H-6、H-10>H-7>H-8 | | 方形 | 凹形 | N-72° -E | 東カマド | ○ | ○ | ○ | 貯蔵穴有 |
| H-8 | — | — | — | H-7>H-8 | | 方形 | 凹形 | N-60° -E | — | ○ | × | ○ | |
| H-9 | — | 3.22 | 0.06 | H-6>H-9 | | 方形 | 凹形 | N-108° -E | 東カマド | ○ | × | × | 貯蔵穴有 |
| H-10 | — | — | — | H-10>H-7、H-8 | | 方形 | 凹形 | N-15° -W | — | ○ | × | × | |
| H-11 | — | — | 0.15 | H-11>H-14 | | 方形 | 凹形 | N-83° -E | — | ○ | × | × | |
| H-12 | — | — | — | H-13>H-12 | | — | — | — | 中央直炉 | × | — | × | |
| H-13 | — | — | — | H-4>H-13>H-12 | | 方形 | 凹形 | N-70° -E | — | ○ | × | × | |
| H-14 | — | — | — | H-11>H-14 | | 方形 | — | N-20° -W | — | — | — | — | 貯蔵穴有 |
| H-15? | — | — | — | H-15>H-13 | | — | — | — | — | — | — | — | |
| B-1 | — | 4.32 | — | H-6>B-1 | | 方形 | — | N-10° -W | — | — | | — | |
| D-1 | 1.68 | 1.38 | 0.48 | D-1>H-6 | | 方形 | 凹形 | — | — | — | — | — | |
| D-2 | — | 1.06 | — | | | 楕円形？ | レンズ形 | — | — | — | — | — | |
| P-1 | 0.96 | 0.86 | 1.10 | H-7>P-1 | | 隅丸方形 | 凹形 | — | — | — | — | — | 井戸か？ |

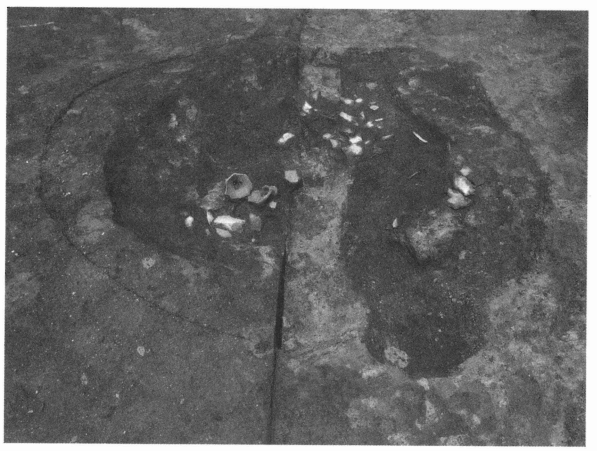
遺跡全景 ／ 東から

遺跡全景 ／ 北西から

H-1全景 ／ 西から

H-2全景 ／ 南から

H-4全景 ／ 東から



H-4 炉 ／ 南から

H-5全景 ／ 南から

H-5遺物出土状況（貯蔵穴上面） ／ 東から

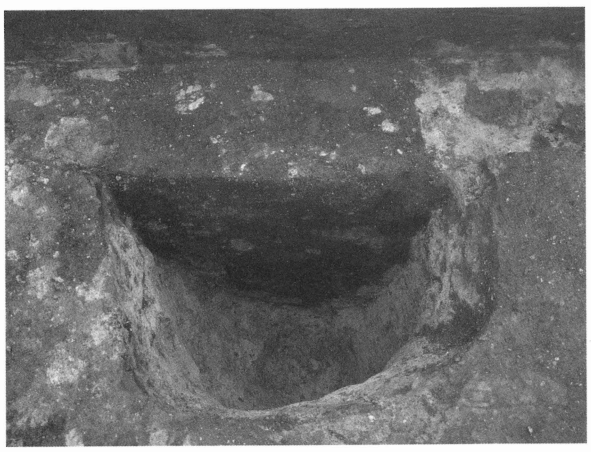
H-5遺物出土状況（貯蔵穴） ／ 東から

H-6全景 ／ 南から

H-7・8、B-1全景 ／ 北西から

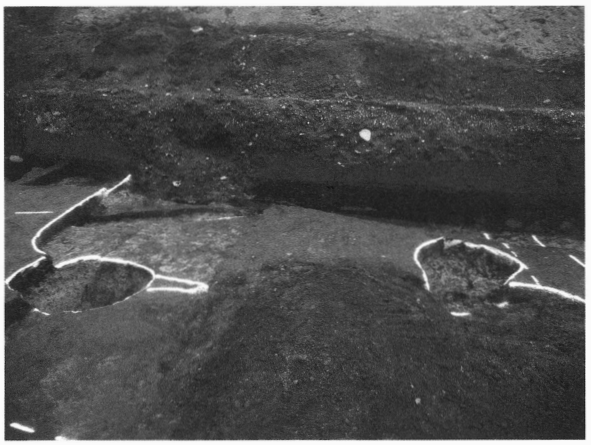
H-7カマド遺物出土状況 ／ 東から

H-7貯蔵穴 ／ 北から



B-1柱穴（北西角） ／ 西から

H-9全景 ／ 南から

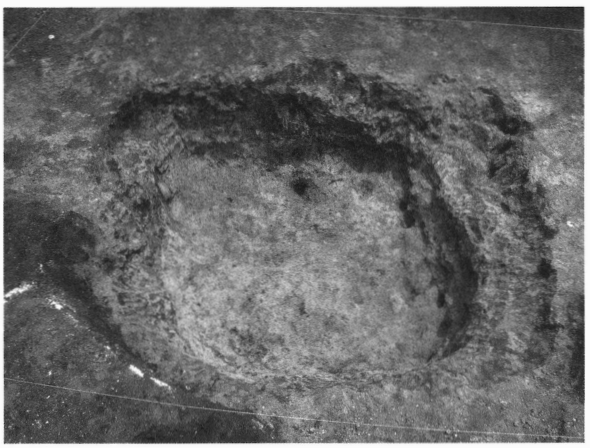


H-10全景 ／ 北から

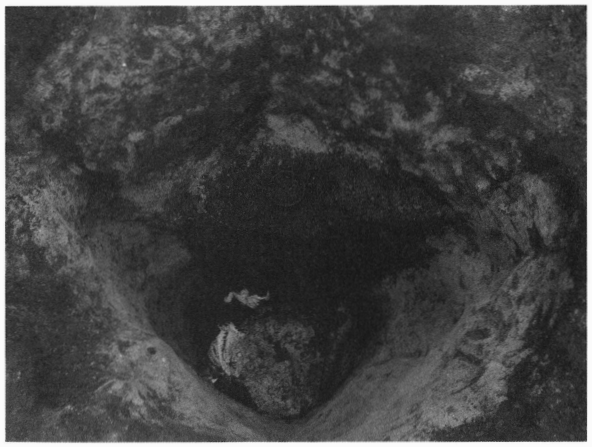
H-11全景 ／ 北から

H-14全景 ／ 東から

H-14遺物出土状況（貯蔵穴） ／ 南から

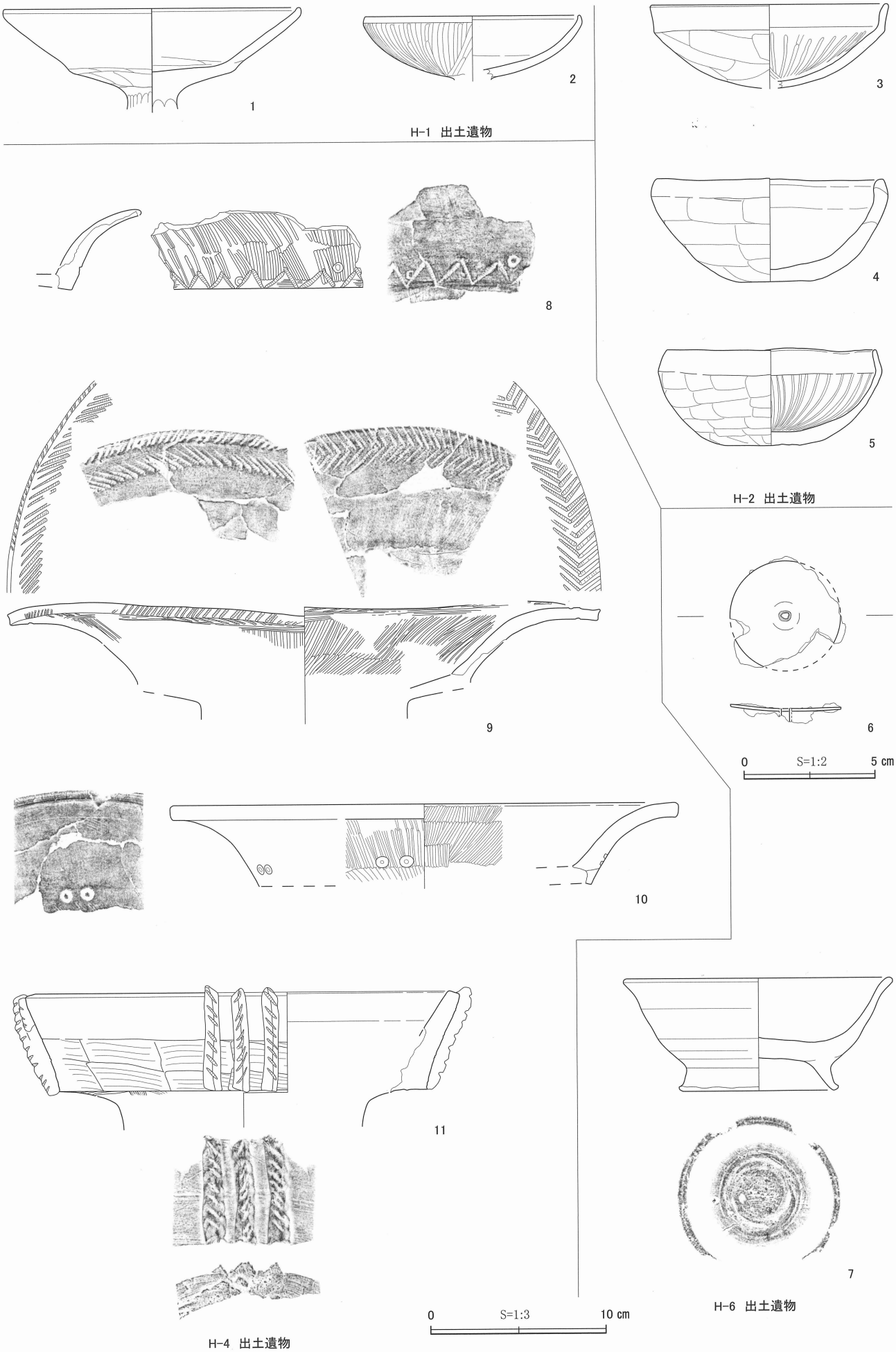


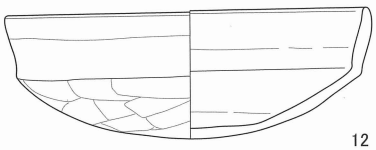
D-1全景 ／ 西から

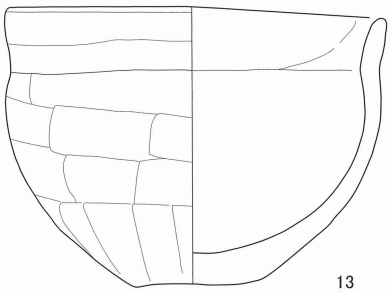


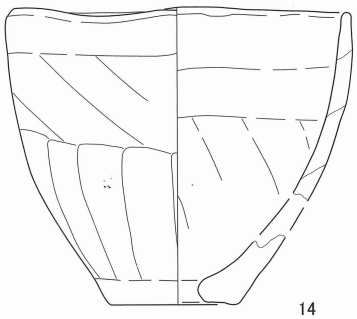
P-1全景 ／ 西から

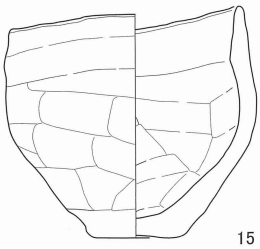
作業風景

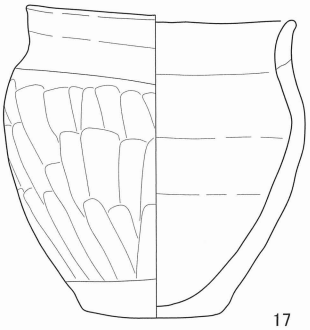

1
2
H-1 出土遺物
3
4
5
H-2 出土遺物
8
9
6
0 S=1:2 5 cm
10
11
7
H-6 出土遺物
0 S=1:3 10 cm
H-4 出土遺物
H-1・2・4・6 出土遺物

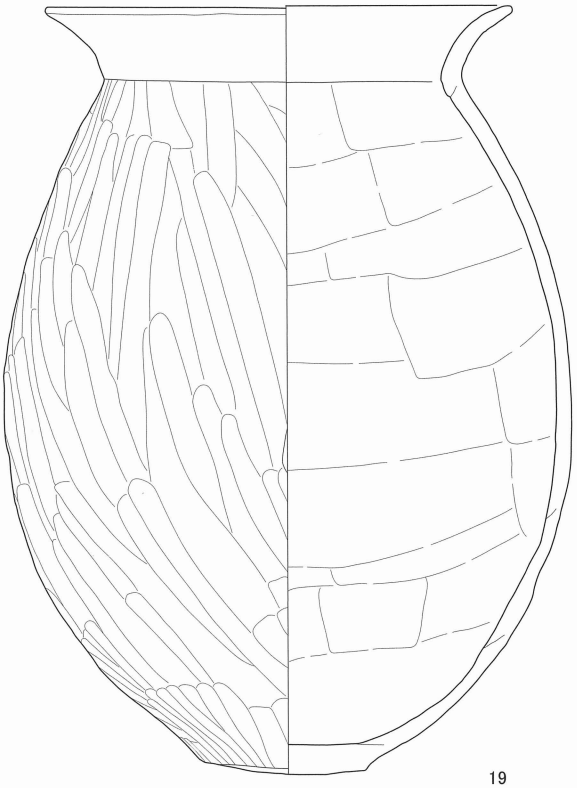

12

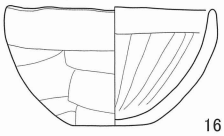

13

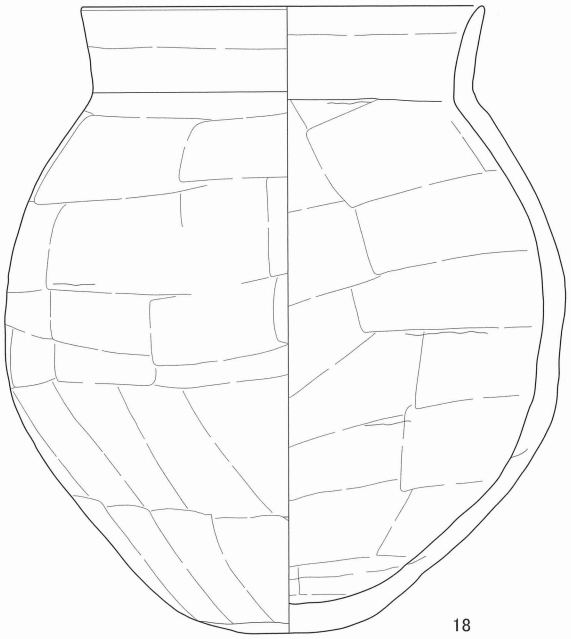

14


15

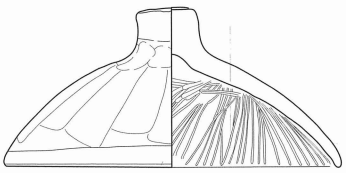

17

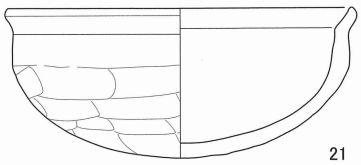

19

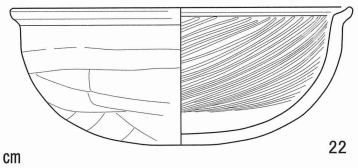

16

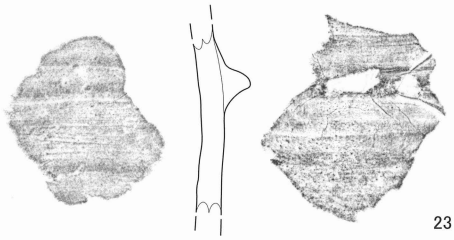

18

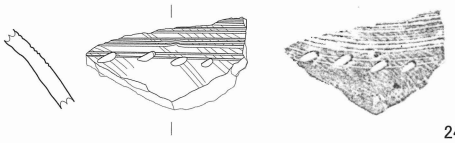
H-5 出土遺物


20


21


22


23

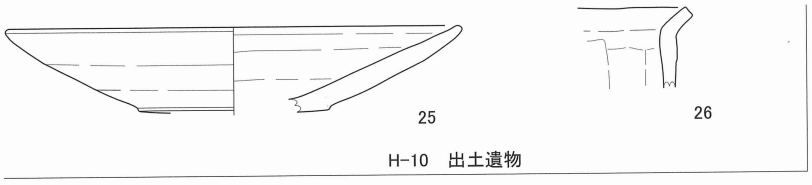

24

H-9 出土遺物

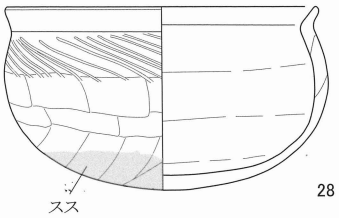
0 S=1:3 10 cm

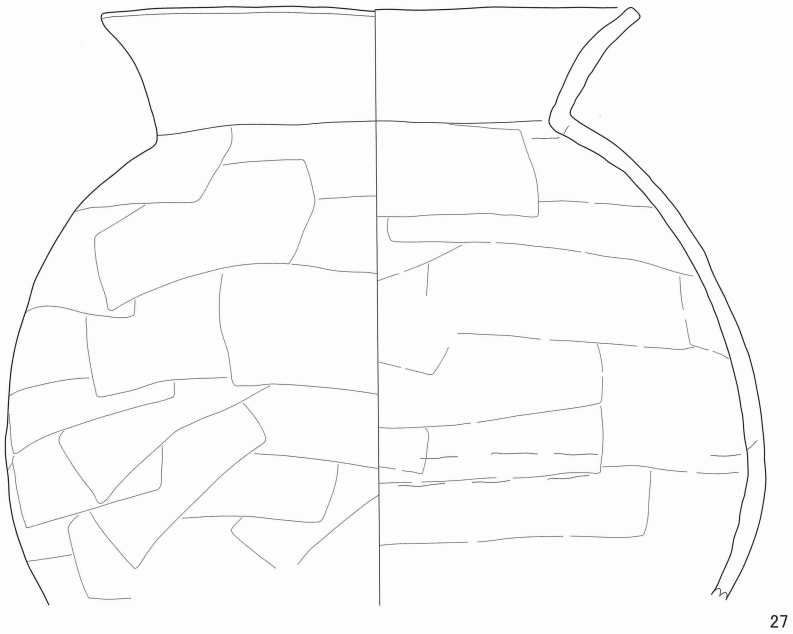
H-7 出土遺物

H-5·7·9 出土遺物

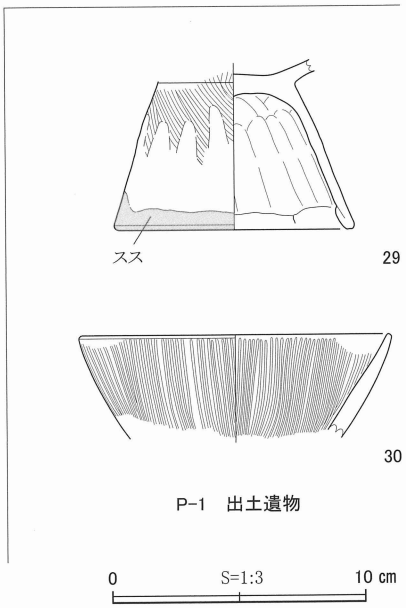



H-10　出土遺物




H-14　出土遺物



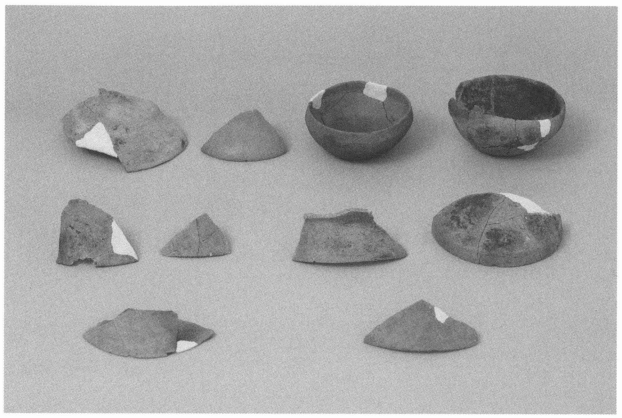

P-1　出土遺物

H-10・14、P-1　出土遺物

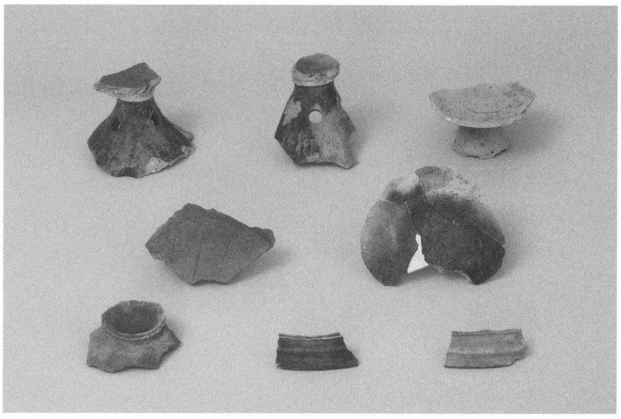
出土遺物観察表

| No. | 出土状況 | 種別 | 器種 | 計測値(cm) 口/径 | 底 | 高/厚 | ①色調 ②胎土 | ③焼成 ④残存 | 特徴・整形 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 1 | H-1　No.3 | 土師器 | 高坏 | 17.1 | — | — | ①橙色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④坏部1/3 | 外面:坏部横ナデ　脚部ミガキ<br>内面:坏部横ナデ | |
| 2 | H-1　No.2 | 土師器 | 高坏 | 12.5 | — | — | ①橙色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④坏部1/4 | 外面:口縁横ナデ　杯部ミガキ<br>内面:横ナデ | |
| 3 | H-2　No.4 | 土師器 | 坏 | 13.6 | — | 4.9 | ①橙色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④1/2 | 外面:口縁横ナデ　体部ヘラケズリ<br>内面:口縁横ナデ　体部ミガキ | 外面底部に炭化物付着 |
| 4 | H-2　No.1・2・一括 | 土師器 | 坏 | 13.0 | 3.2 | 5.9 | ①明赤褐色<br>②石英、雲母、細礫、結晶片岩 | ③良好<br>④7/8 | 外面:口縁横ナデ　体部ヘラケズリ<br>内面:口縁横ナデ | 内面1/2に炭化物付着<br>底部ツルツル　使用痕？ |
| 5 | H-2　No.1・3・一括 | 土師器 | 坏 | 11.8 | 4.1 | 5.5 | ①明赤褐色<br>②石英、雲母 | ③良好<br>④完形 | 外面:口縁横ナデ　体部ヘラケズリ<br>内面:口縁横ナデ　体部ミガキ | 外面底部周辺にスス付着 |
| 6 | H-6　一括 | 鉄製品 | 紡錘車 | 4.4 | — | 0.5 | | | | 軸穴　隅丸方形？ |
| 7 | H-6　No.1 | 須恵器 | 椀 | 15.4 | 9.1 | 6.4 | ①にぶい黄橙色<br>②石英、チャート、細礫 | ③良好<br>④1/2 | 外面:ロクロナデ　底部回転糸切り後ナデ<br>内面:ロクロナデ | |
| 8 | H-4　No.8 | 土師器 | 二重口縁壺 | — | — | — | ①にぶい黄橙～橙色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④口縁破片 | 外面:口縁ナデ後ミガキ　後から円形刺突文、鋸歯文 | 細片に破砕 |
| 9 | H-4　No.8・炉 | 土師器 | 二重口縁壺 | 33.6 | — | — | ①にぶい黄橙色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④口縁1/3 | 外面:ナデ後ミガキ　口縁に綾杉文<br>内面:ナデ後ミガキ　口縁に綾杉文 | 細片に破砕 |
| 10 | H-4　No.7・11・炉 | 土師器 | 二重口縁壺 | 29.0 | — | — | ①にぶい黄橙～橙色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④口辺1/4 | 外面:口縁横ナデ　口辺ミガキ後円形刺突文　頸部ハケメ　内面:ミガキ | 円形刺突文2ヶ所×8単位<br>接合部にキザミ跡　細片に破砕 |
| 11 | H-4　No.7・11・炉 | 土師器 | 二重口縁壺 | 24.8 | — | — | ①浅黄色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④口縁1/3 | 外面:ハケメ後ナデ消し<br>内面:横ナデ | 棒状浮文3本×4単位<br>細片に破砕 |
| 12 | H-5　No.11 | 土師器 | 坏 | 14.4 | 5.0 | 5.1 | ①明赤褐色<br>②石英、細礫 | ③良好<br>④完形 | 外面:口縁横ナデ　体部ヘラケズリ<br>内面:横ナデ | 外面底部にスス付着 |
| 13 | H-5　No.12 | 土師器 | 小型甕 | 15.1 | 5.1 | 11.2 | ①橙色<br>②石英、雲母 | ③良好<br>④完形 | 外面:口縁横ナデ　体部ヘラケズリ<br>内面:横ナデ | 内面ツルツル　使用痕？ |
| 14 | H-5　No.1 | 土師器 | 小型甑 | 13.6 | 5.0 | 11.9 | ①橙色<br>②石英、雲母 | ③良好<br>④完形 | 外面:口辺横ナデ　体部ヘラケズリ　底部ナデ　内面:横ナデ　体部ヘラナデ | 内側全面に炭化物付着<br>外面に籾殻痕？有 |
| 15 | H-5　No.10 | 土師器 | 小型甕 | 9.4 | 4.0 | 9.2 | ①にぶい褐色<br>②細礫 | ③良好<br>④完形 | 外面:口縁横ナデ　体部ヘラケズリ<br>内面:口縁横ナデ　体部ヘラナデ | 外面:スス付着<br>内面:炭化物付着 |
| 16 | H-5　No.6 | 土師器 | 坏 or 鉢 | 8.2 | 3.1 | 4.8 | ①明赤褐色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④完形 | 外面:口縁横ナデ　体部ヘラケズリ<br>内面:口縁横ナデ　体部ミガキ | |
| 17 | H-5　No.2 | 土師器 | 小型甕 | 10.5 | 5.3 | 12.1 | ①明赤褐色<br>②石英、雲母 | ③良好<br>④完形 | 外面:口辺横ナデ　体部ヘラケズリ　下部横ナデ　底部ヘラケズリ　内面:横ナデ | 外面に被熱、赤色化 |
| 18 | H-5　No.4 | 土師器 | 甕 | 15.8 | 4.8 | 24.8 | ①にぶい黄褐色<br>②石英、雲母、細礫、結晶片岩 | ③良好<br>④4/5 | 外面:口縁横ナデ　体部ヘラケズリ<br>内面:口縁横ナデ　体部ヘラナデ | 外面部分的にスス付着 |
| 19 | H-5　No.3 | 土師器 | 甕 | 18.5 | 6.4 | 30.4 | ①にぶい黄橙色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④5/6 | 外面:口縁横ナデ　体部ヘラケズリ<br>内面:口縁横ナデ　体部ヘラナデ | 外面下部にスス付着 |
| 20 | H-7　No.2 | 土師器 | 蓋 | 13.4 | — | 6.3 | ①明赤橙色<br>②石英、チャート | ③良好<br>④完形 | 外面:つまみ指オサエ後ナデ　上部ヘラケズリ　口縁ナデ　内面:ナデ後ミガキ | |
| 21 | H-7　No.4 | 土師器 | 坏 | 13.6 | 3.8 | 5.4 | ①明赤褐色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④1/4 | 外面:上部横ナデ　下部ヘラケズリ<br>内面:口縁横ナデ　ミガキ | |
| 22 | H-7　No.5 | 土師器 | 坏 | 14.0 | 3.6 | 5.9 | ①橙色<br>②石英、細礫 | ③良好<br>④完形 | 外面:口辺横ナデ　下半ヘラケズリ<br>内面:口縁横ナデ　ミガキ？ | 内面全体的に炭化物付着 |

| No. | 出土状況 | 種別 | 器種 | 計測値(cm) 口/径 | 底 | 高/厚 | ①色調<br>②胎土 | ③焼成<br>④残存 | 特徴・整形 | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 23 | H-9　No.1 | 須恵器 | 羽釜 | — | — | — | ①黄灰色<br>②石英、雲母、細礫 | ③普通<br>④鍔部 | 外面:横ナデ<br>内面:横ナデ | |
| 24 | H-9　No.2 | 土師器 | 加飾壺 | — | — | — | ①にぶい黄橙色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④体部破片 | 外面:ハケメ後、櫛描文　押圧文<br>内面:ハケメ | |
| 25 | H-10 一括 | 土師器 | 高坏 | 18.0 | — | — | ①褐色<br>②雲母、細礫 | ③良好<br>④杯部1/8 | 外面:横ナデ<br>内面:横ナデ | |
| 26 | H-10 一括 | 土師器 | 小型甑？ | — | — | — | ①にぶい黄橙～灰黄褐色<br>②石英、雲母、 | ③良好<br>④口辺破片 | 外面:口縁横ナデ　胴部ヘラケズリ<br>内面:口縁横ナデ　胴部ヘラナデ | |
| 27 | H-14 No.1 | 土師器 | 甕 | 21.3 | — | — | ①橙色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④口～体部 | 外面:口縁横ナデ　体部ヘラケズリ<br>内面:口縁横ナデ　体部ヘラナデ | |
| 28 | H-14 No.2 | 土師器 | 坏 | 12.4 | 4.5 | 7.3 | ①明赤褐色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④完形 | 外面:口縁横ナデ　胴上部ミガキ　胴下部ヘラケズリ　内面:横ナデ | 外面底部にスス付着 |
| 29 | P-1　一括 | 土師器 | S字甕 | — | 9.6 | — | ①明褐～黒褐色<br>②石英、雲母、海綿骨針、細礫 | ③良好<br>④台部のみ | 外面:ハケメ後、ナデ消し<br>内面::縦ナデ | 外面下部にスス付着 |
| 30 | P-1　No.1 | 土師器 | 小型坩？ | 12.4 | — | — | ①橙色<br>②石英、雲母、細礫 | ③良好<br>④口辺1/4 | 外面:ミガキ後、口縁ナデ<br>内面:ミガキ | |

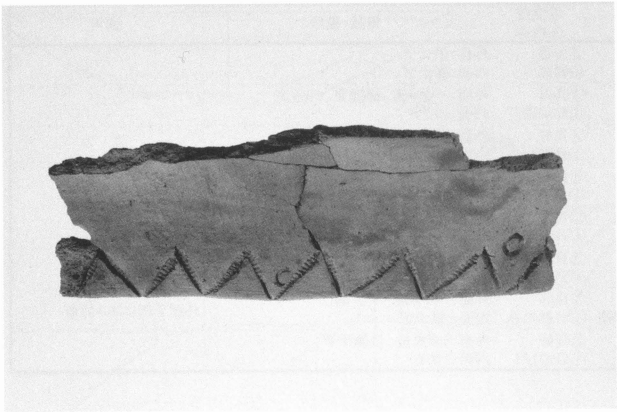


H-1･2･3 出土遺物

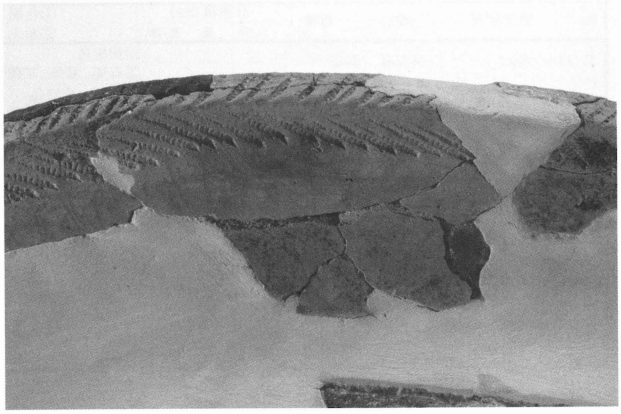


H-4 出土遺物

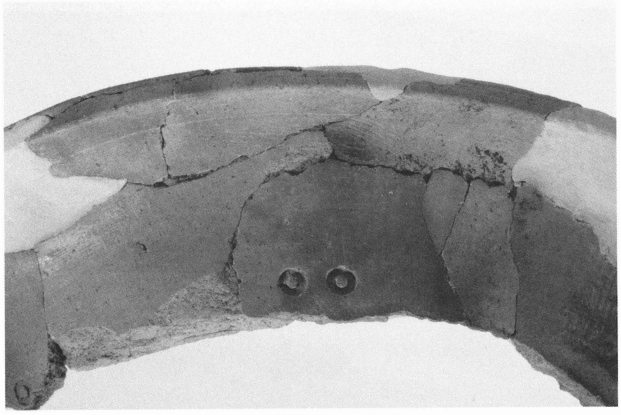
H-4炉 出土加飾壺



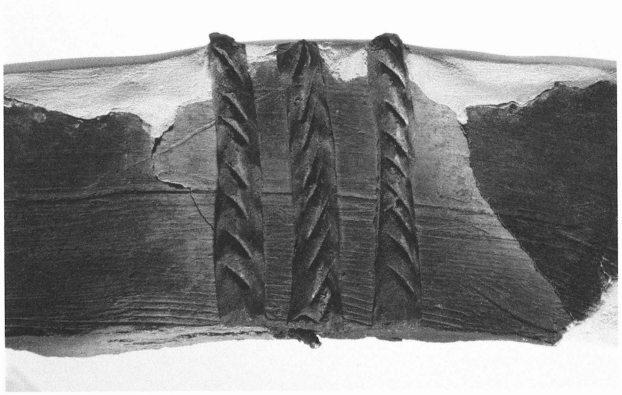
H-4炉 No.8



H-4炉 No.9口縁部外面

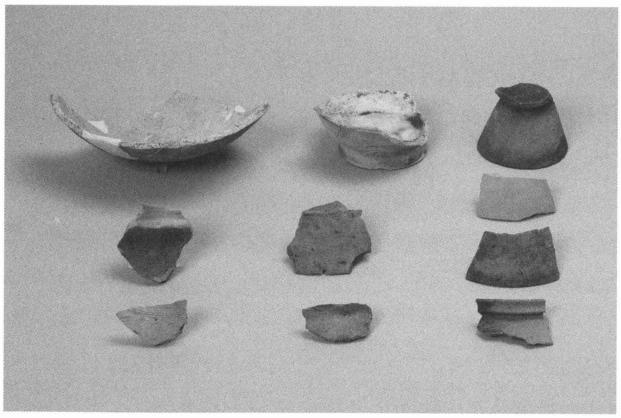


H-4炉 No.10外面

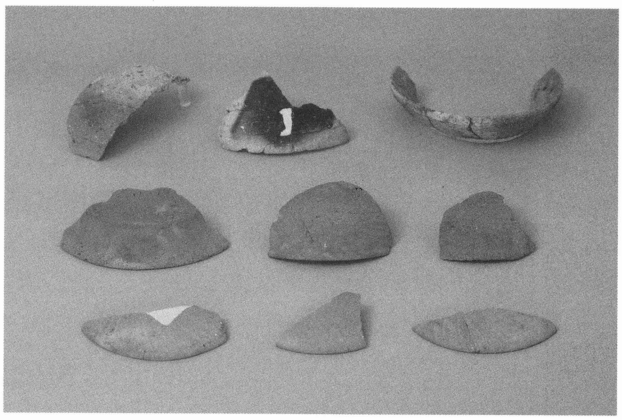


H-4炉 No.11外面

H-5 出土遺物



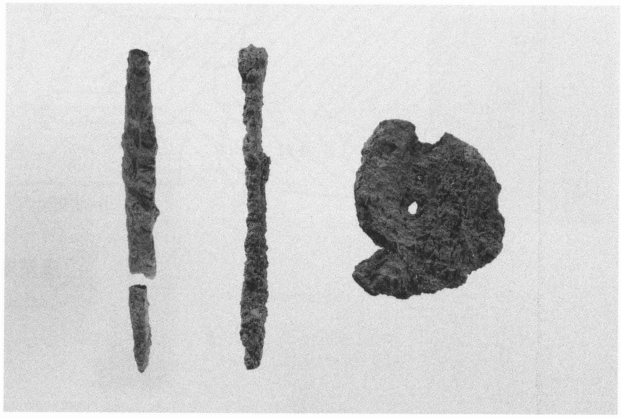
H-6・9・10、D-1、P-1　出土遺物



H-7 出土遺物

H-7 出土遺物

H-14　出土遺物



鉄製品

## 4 まとめ

最後にまとめとして各遺構の新旧関係を整理し、それぞれの帰属時期について推測することとする。

まず、重複関係にある遺構の平面・土層断面の観察結果から判断される新旧関係は新旧関係表に示すとおりであり、これを基本に各遺構の出土遺物から帰属時期を推定すると新旧関係図に示すとおり大まかな時期を当てはめることが可能である。しかし、H-3・8・9・12・13、B-1、D-1、P-1のように出土遺物がほとんど伴わないものがあり、遺構形状を判断材料として加えたものも含まれる。ちなみにH-8は新旧関係においてH-7(鬼高期(古))より古いこと、形状の特徴としてH-1と同じくしっかりした壁溝を持つことから和泉期(古)に帰属するものと判断した。また、B-1はH-7より古くH-8より新しいことは検出状況、土層観察で確認されており、双方の間である和泉期(新)の可能性が高いと考えられる。

本遺跡は市街地に隣接する地域にあり、周辺地域を含む遺跡の存在はあまり知られていなかったが、今回の調査および南に隣接する生川遺跡や広瀬川沿いに点在する古墳の状況から古墳時代の集落跡が広範囲に展開することが示唆される。特に本遺跡では石田川期～鬼高期の住居が密集した状態で確認され、生川遺跡でも同時期の集落が確認されていることを考えると大規模集落の存在が想定される。また、県内の報告例では方形周溝墓・古墳に限って出土していたパレス系壺が石田川期の住居炉からまとまって4点も出土したことも、本集落の特殊性・重要性を予測させられる。

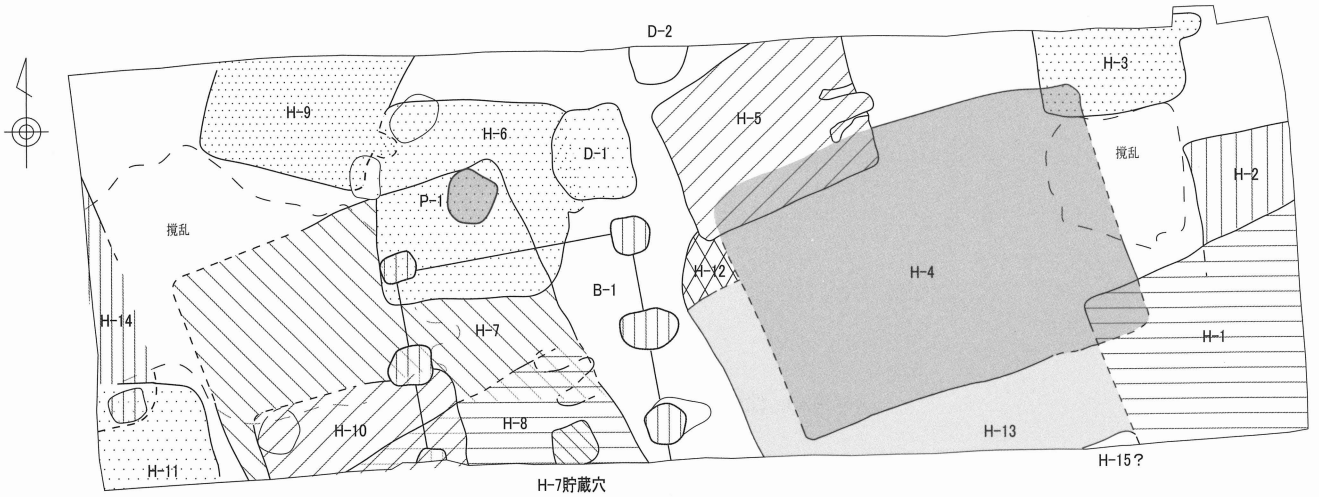
いずれにしても、本遺跡が市街地に在っても後世の破壊を免れた重要な遺跡が存在する可能性を示したこと、石田川期～鬼高期に営まれた集落の存在が証明されたこと、市街地周辺初のパレス系壺の出土、および県内における新たな出土事例が得られたことは大きな成果である。本調査によって遺跡の全容が解明されたわけではないが、少なくとも新たな遺跡の存在、遺跡の重要性、新たな発見が示されたことは地域社会、さらには古墳時代を解明する上で有益、かつ重要な成果が加えられたことに間違いはない。

**新旧関係表**

| | 古 | | | | | | | | 新 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ① | | | | | | → | H-1 | → | H-2 |
| | H-12 | → | H-13 | → | H-4 | → | H-5 | | |
| | | | | | | → | H-3 | | |
| ② | H-8 | → | B-1 | → | H-7 | → | H-10 | | |
| | | | P-1 | → | | → | H-6 | → | D-1 |
| | | | | | H-9 | → | | | |
| ③ | H-14 | → | H-11 | | | | | | |

凡例

- 石田川以前
- 石田川期(古)
- 石田川期(新)
- 和泉期(古)
- 和泉期(新)
- 鬼高期(古)
- 鬼高期(新)
- 9c～10c後半




遺構新旧関係図

## 5 H-4炉出土の二重口縁壺について

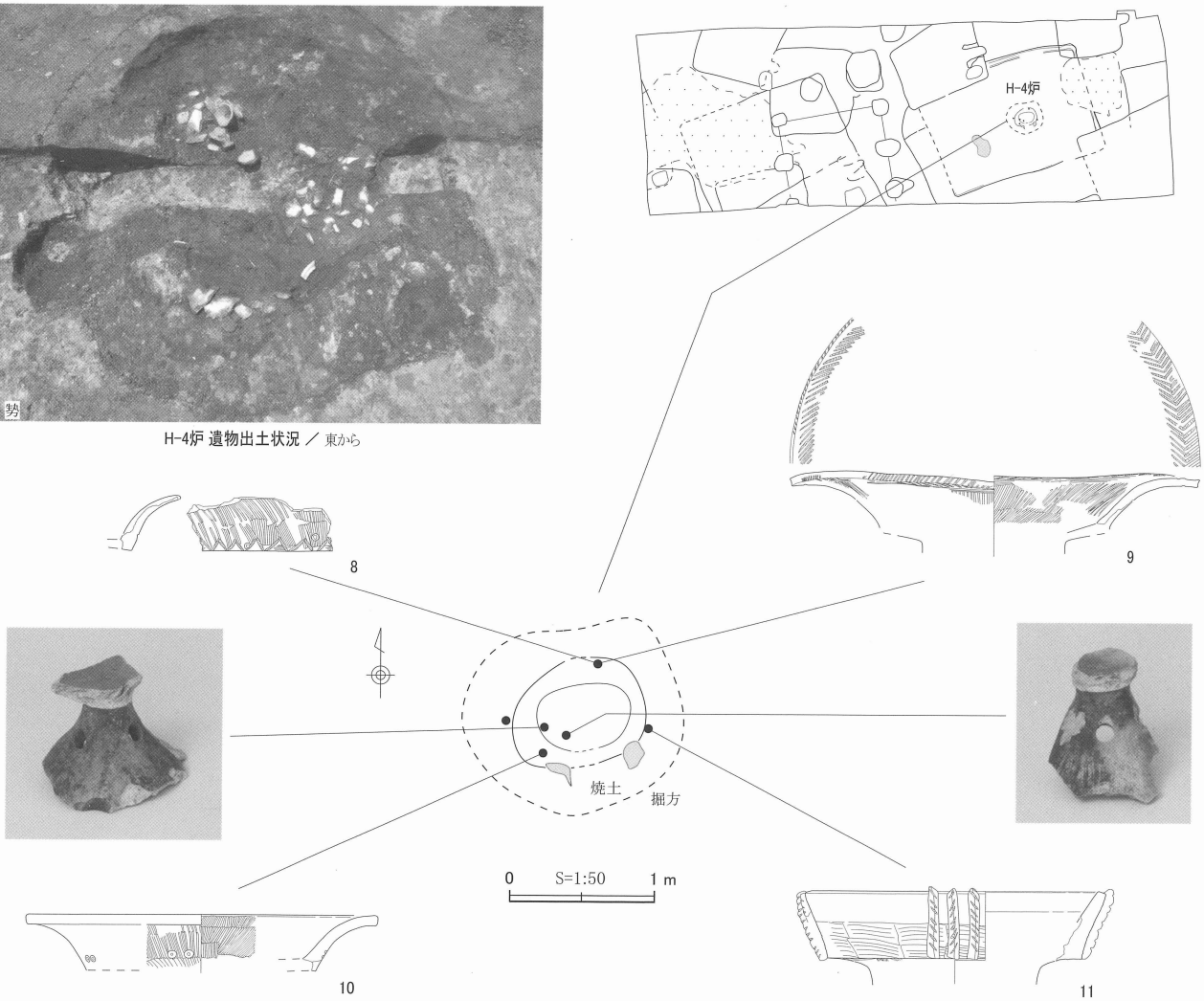
H-4中央の直炉より二重口縁壺の口縁が4個体分出土するという特異な状況が確認できたので、その出土状況を紹介すると共に若干の考察を加える。

出土状況については、直径約1mの東西方向に少し細長い楕円形の炉が、H-4の中央やや東よりに表土掘削直後に確認できた。浅間C軽石と炭が混じる覆土を除去すると焼土と炭溜まりが良好な状態で遺存していた。遺物は、炉壁に沿うように大きく3ヶ所から、器面に貫入が入り、剥離するように細片に破砕した状態で出土した。確認した際には3ヶ所に分かれたそれぞれが1個体から複数個体のブロックである印象があった。しかし、接合復元の過程で離れた位置のものも接合すること、体部片や底部片も確認できるが完形にはならず、復元した口縁から二重口縁壺4個体分であることが判明した。二重口縁壺の他には、脚部中位に3方向の透かし穴がある高坏や凹んだ底部の平底壺、シャープな口縁端部に明瞭な面をもつS字甕などの遺物片が共伴していた。確認できた破片は、被熱により赤色化したものやススが広範囲に付くものが多く、割れ口にも同様の痕跡が見られた。図面と写真を見ると、高杯や壺底部片などの大形の破片は炉中央から南西部に集まり、二重口縁壺やS字甕の口縁片は北東部に広がるように分布している。これに復元状況をふまえると元々は中央付近にあったものが、北東方向に拡散するように割れ、破損後も割れ口にススが付くほど炉が使用された状況が推察される。

次に二重口縁壺についてだが、類似の出土事例は発掘調査自体が少ないこともあり、遺跡周辺の前橋市街地では確認できなかった。範囲を広げてみるとNo.10に類似の底部穿孔二重口縁壺が、遺跡より約3km南の利根川左岸、公田東遺跡1号周溝墓から出土している。器形は伊勢型二重口縁壺と呼ばれる器形である。8も10に似るが口縁下部に鋸歯文を廻らす類例は見当たらない。9は細違はあるが、類似する底部穿孔のパレススタイル二重口縁壺が約6km南西の井野川右岸、貝沢柳町遺跡1号方形周溝墓から出土している。東海系加飾壺と呼ばれるものである。11は類似の棒状浮文を持つ二重口縁壺が、約7km東の荒砥川左岸、荒砥北原遺跡1号方形周溝墓から出土している。東海東部地域の要素を持つ壺である。



H-4炉 遺物出土状況 ／ 東から




H-4炉 遺物出土状況図

今回出土の4点と以上の類似壺を比較すると、東海西部・東部、畿内などの遠隔地域発祥の形式要素が融合し、在地化している点が共通点として看過できる。しかし、類似例はすべて周溝墓の周溝からの出土であることが大きな相違点としてある。器面の広範囲を飾る加飾壺の性質からすれば、葬祭儀礼に関連する遺構から出土するのが自然であり、住居の炉という日常生活の中心からの出土は極めて特殊である。4点という数、口縁部の破片が大多数である状況からも、当初から炉に据えられていたのではなく、二次的に炉に置かれたと考えるのが妥当だろう。炉に置いた理由については、①口縁の破片を炉の構築材として二次転用した。②住居内の火を使う儀礼に、墓に供膳する土器を転用した。などの可能性を考えるが、いずれも決め手になる証拠はない。住居自体の検討と共に、今後の課題としたい。

※二重口縁壺に関して田口一郎氏、深澤敦仁氏から有益な御教示をいただいた。文末ではあるが謝礼を申し上げる。

**参考文献**

赤塚次郎1996「濃尾平野における古墳時代の甕」『鍋と甕　そのデザイン』第4回東海考古学フォーラム
かみつけの里博物館1998『人も動く・土器も動く―古墳が成立する頃の土器の交流―』
群馬県教育委員会・群馬県埋蔵文化財調査事業団1986『荒砥北原遺跡　今井神社古墳群　荒砥青柳遺跡』
群馬県埋蔵文化財調査事業団1997『橲島川端遺跡　公田東遺跡　公田池尻遺跡』
高崎市教育委員会1986『貝沢柳町遺跡』
田口一郎1981「S字状口縁台付甕の分類と編年」『元島名将軍塚古墳』

## 発掘調査報告書抄録



| | |
|---|---|
| ふりがな | みなみちょういちのつぼ |
| 書名 | 南町市之坪遺跡 |
| 副書名 | レオパレス21山口邸新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 |
| 編著者名 | 山下歳信・大嵩崎泰明・笠原仁史 |
| 巻次 | — |
| シリーズ名 | — |
| シリーズ番号 | — |
| 編集機関 | 前橋市教育委員会 管理部文化財保護課 |
| 所在地 | 〒371-0018 前橋市三俣町二丁目10-2　TEL 027-231-9531 |
| 発行年月日 | 西暦 2008年 9月15日 |



| フリガナ<br>所収遺跡名 | フリガナ<br>所在地 | コード<br>市町村 | コード<br>遺跡番号 | 北緯 | 東経 | 調査期間 | 調査面積 | 調査原因 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| ミナミチョウイチノツボイセキ<br>南町市之坪遺跡 | マエハシシミナミチョウヨンチョウメ<br>前橋市南町四丁目<br>46番1、46番10 | 10201 | 20H-44 | 36° 22′ 26″ | 139° 04′ 23″ | 2008.06.25<br>～<br>2008.07.11 | 220㎡ | アパート建設 |

| 所収遺跡名 | 種別 | 主な時代 | 主な遺構 | 主な遺物 | 特記事項 |
|---|---|---|---|---|---|
| 南町市之坪遺跡 | 集落 | 古墳～平安 | 住居　15軒<br>掘立柱建物　1棟<br>土坑　2基<br>ピット　1基 | 土師器多量、須恵器・鉄製品若干 | パレス系壺<br>鬼高期一括遺物 |
| 要約 | 古墳～平安時代の住居跡・掘立柱建物等が確認された。鬼高期を主体に4世紀初頭を上限とし、10世紀後半を下限とする遺物が出土しているが、H-4のパレス系壺は市内初例であり、住居炉からの出土は県内において報告事例がない。 | | | | |

**南町市之坪遺跡**

印刷　平成20年9月12日
発行　平成20年9月15日

発行　前橋市教育委員会文化財保護課
群馬県前橋市三俣町 2-10-2
電話 027-231-9531

印刷　朝日印刷工業株式会社